

# 平成31年度 学校自己評価システムシート（県立三郷高等学校）

目指す学校像	志と思いやりの心を育み、生徒一人一人の進路を実現する学校
--------	------------------------------

重点目標	1 集団の一員としての自覚と規律の確保 2 基礎学力とコミュニケーション能力の定着 3 キャリア教育を生かした志の育成 4 家庭・地域と連携した安心安全な教育環境の提供
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2月1日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	現状 きめ細かな指導により、規範意識の定着を図っている。大部分の生徒は、素直であり、協力的である。一部生徒に自覚に欠ける行動がある。  課題 遅刻防止をはじめとする基本的な生活習慣の定着が課題である。	○遅刻者を減少させる。	①毎日の登校指導と朝のチャイム前校歌放送を実施する。 ②遅刻者数の分析・統計を実施する。 ③生徒の規範意識の定着について保護者と積極的に連携する。 ④スクールカウンセラーと積極的に連携する。 ⑤全校集会を実施する。	①遅刻者数が減少したか。 ②皆勤者数が増加したか。 ③遅刻者数の分析ができ、今後の対策に生かされたか。 ④課題のある生徒に対しての情報共有が進んだか。 ⑤全校集会で生徒の意識の高揚が図れたか。	①第二学期の1日当たりのクラス平均遅刻者は2.0人。(昨年同期2.7人。0.7人の減少)皆勤者数は96名。(昨年同期から19名減。) ②教員分担による登校時の挨拶指導及び始業前校歌放送が定着した。 ③教育相談委員会を中心に、見守りを必要とする生徒情報を共有し、スクールカウンセラーによる面談や助言を活用した。 ④全校集会を活用した学校としての指導方針が定着し、生徒の規範意識が高まった。	B	特定生徒による欠席・遅刻を減少させるために、家庭と学校双方向の連携を密にし、生徒情報の共有を図る必要がある。また、整容指導や挨拶の慣行など基本的な生活習慣の確立させるための校内生徒指導体制の見直し・改善を継続的に行い、規範意識を醸成させていく。
		○集団の一員であることを自覚させる。	①仲間との団結や、協力する姿勢を重視した行事運営を行う。 ②部活動生徒を中心に、地元主催行事等の運営に協力する。 ③三郷市と連携した「親になるための学習」を継続して実施する。	①生徒の各行事への参加率、運営への協力姿勢が向上したか。 ②生徒の参加態度、満足度が向上したか。 ③三郷市主催行事に積極的に協力したか。	①文化祭や体育祭等の学校行事に活躍の場を生徒に与え、リーダーの役割を経験させた。 ②生徒の行事参加率は体育祭97%、文化祭94%であった。 ③将来の社会生活の一助となる「親学講演会」や「租税教室」を実施した。 ④三郷市市民講座を3講座実施するとともに、三郷市が主催した俳優村田さんと本校演劇部生徒との対談に協力した。	A	近隣地域や関係行政機関と今後も積極的に連携し、生徒が主体的に活動し、活躍できる機会を多く設けていく。また、様々な活躍の経験を、社会に出た時の経験に繋がるように、事後指導を丁寧に行いながら、生徒の社会性と課題解決能力を育成する。
2	現状 生徒を主体とした授業実践により、学習意欲が向上し、成績優秀者が増加している。自己表現力が未熟で、他者とのコミュニケーションに支障のある生徒がいる。  課題 基礎学力を定着させ、コミュニケーションスキルを向上させることが課題である。	○基礎学力を定着させ、主体的に学ぶ態度を育成する。	①クラスターを学年進行で導入し、家庭学習を支援する。 ②教員が校内外の公開授業に積極的に参加し、成果を共有する。 ③生徒による授業評価アンケートを実施し、結果をフィードバックする。 ④協調学習を取り入れた授業を実践し、主体的な学びを推進する。	①成績優良者数が増加し、成績不振者が減少したか。 ②公開授業参加者について校内での成果共有が図れたか。 ③授業に興味関心を持つ生徒が増えたか。 ④協調学習を取り入れた授業について生徒理解が浸透したか。	①継続的な学び直しプログラムを実施し、2学期時点での成績優秀者が経年変化で以下のように増加した。 1年生時→2年生時(41名→41名)、2年生時→3年生時(37名→45名)合計(78名→86名) ②校内研究授業を実施するとともに、他校の公開授業に3名の教員が参加し、校内報告を行い成果を共有することができた。 ③生徒の授業満足度アンケート結果は良好であった。	B	国語・英語・数学で実施しているマナトレによる学習を継続的に実施し、基礎学力の向上を図っていく。また、教員の授業力向上策のとして、他校実施の公開授業や研修会等に積極的に参加させるとともに、校内研究授業を継続的に実施していく。
		○生徒の活躍の場を設定し、コミュニケーション能力を育成する。	①学校行事等を生徒が中心となって運営する。 ②学期初めの4月、9月、1月に全校でコミュニケーション能力育成プログラムを実施する。 ③遠足などの行事において生徒が活躍できる多様な場を設定する。	①褒める機会が増え、生徒満足度が向上したか。 ②コミュニケーション能力育成プログラムが充実して行えたか。 ③生徒の活躍できる場が増えたか。	①1年次にアドベンチャー学習を実施した。実施後の生徒の感想は概ね良好であった。 ②地域若者サポートステーションと連携し、コミュニケーション育成プログラムを年2回実施した。また、教員向けの研修会も年1回実施し、教員の資質向上を図った。 ③部活動生徒による学校説明会の運営協力や母校訪問等、生徒の積極的な活躍が随所に見られた。 ④部活動合同合宿を年2回実施した。	A	外部機関と連携したコミュニケーション能力の向上につながる教員向け研修会は有効であった。今後も研修会を実施しながら教員の資質向上を図っていく。また、学校行事及び部活動においては、常に三郷高校の生徒の一員であるという自覚や社会性を育成する機会を確保していく。
3	現状 三年間を見通した進路指導計画を構築し、学年差やクラス差のない進路指導を展開している。早期に高い就職内定を達成し、推薦を中心とした進学実績も高い。一方で、自らの生き方を考察できない生徒が一定数いる。  課題 キャリア教育を充実し、自己肯定感を醸成させることが課題である。	○進路関連行事を通じて、有為な社会人となる志を育成する。	①入学から卒業までの3カ年進路指導計画を策定し、学年差のない指導を展開する。 ②各種講演会、進路指導行事を開催する。 ③3学年各クラスに新聞朝刊を設置する。	①総合的な学習の時間とLHRで進路指導が円滑に行われたか。 ②進路行事後のアンケートにおいて満足度が向上したか。 ③朝刊新聞を各ホームルームで活用したか。	①「進路ノート」「進路の手引き」を利用した3カ年の計画的な進路指導が定着した。 ②各学年で実施した講演会、分野別説明会に関して生徒から能動的な評価を得た。 ③朝刊を用いて、自分の興味関心のある記事をスクラップし、その記事に関する感想を記述する練習が定着した。 ④大学進学者31名(昨年29名)、短大9名(昨年9名)の進学実績を達成した。	A	組織的・計画的な3年間の進路指導計画が定着した現在、今後は継続的に改良を加えて実施していく必要がある。現在の本校進路指導は1年半から本格化していく形だが、もう少し早い段階から入ることを検討する。面接指導は年間計画を予定通り完了した。外部講師による面接指導についても今後充実させていく。
		○キャリア教育を充実し、進路決定率90%以上を達成する。	①進路希望実現の対策として、模擬面接指導に外部講師を積極活用する。 ②希望進路実現のためのきめ細かなカウンセリングを実施する。 ③進路指導部と3学年との緊密な連携体制を構築する。	①面接指導及びカウンセリングが適切に実施されたか。 ②進路決定率が向上したか。 ③学校生活アンケートの進路指導への満足度が向上したか。	①学年進行によるクラスターを導入し、各教科において積極的に活用している。 ②JSTや外部講師等を活用した面接を延べ400名の生徒に実施した。その結果、就職希望者の内定率100%を達成した。 ③進路決定率は12月末段階で90.2%となった。 ④商業関連では、日本情報処理検定における5種目1級合格1名、4種目1級合格1名、3種目1級合格9名を輩出した。	A	進路決定率は設定目標を達成しているが、決定に至るプロセスが未熟な生徒もいる。もう一段上の進路先を目指し、努力できる場面を作っていく。そのためにも、早い段階での進路選択ができる支援策を構築していく。
4	現状 PTA後援会理事会や、学校行事への保護者参加は、年々増加している。また、地域向け公開講座や、イベント参加、地元中学校への出前授業も期待に込めている。  課題 学年PTAの活性化や、PTA研修行事の活性化が課題である。	○PTA活動を活性化し、本校に対する保護者の理解・協力を深める。	①PTA・後援会総会において、本校の取組を具体的に説明する。 ②PTA専門部主催の事業をタイラーに、効果的に企画・実施する。 ③保護者の体育祭や文化祭、長距離走大会等への協力を促す。	①保護者の本校教育実践に対する理解浸透が進んだか。 ②PTA各種事業への参加者数が増加したか。 ③体育祭や文化祭等への保護者来校者数が増加したか。	①PTA・後援会理事会において、活発に意見交換がなされ、PTAと学校の連携協体制が構築されている。 ②PTA総会や理事会等への保護者参加者率は50%程度である。 ③文化祭における保護者参加者が139名(昨年度94名)となった。	B	次年度の各種行事において、選別を行い、一つ一つの行事内容を充実させていく。さらにPTA(家庭)・後援会と学校が連携を深め、持続可能な組織運営を進める。
		○地域連携を積極的に推進し、地域及び志願中学生の理解を深める。	①HP、学校案内、三郷高校通信等の広報ツールを活用する。 ②中学校からの要請講座や地域向けの公開講座を実施する。 ③在校生による母校訪問を実施する。 ④中学校向け学校説明会について、参加型の内容に改善する。	①ホームページの更新回数が増え、「三郷高校通信」が活用されたか。 ②公開講座、出前授業が実施され、参加者が満足したか。 ③地元中学校からの志願者が増えたか。 ④学校説明会参加中学生の本校理解が進んだか。	①学校説明会に向けての「三郷高校通信」を5回発行することができた。 ②ボランティア部や生徒会を中心に未成年者喫煙防止キャンペーンなどの社会貢献活動に積極的に取り組んだ。 ③中学校からの出前授業や上級学校訪問など中学校からのニーズには全て応えている。 ④学校説明会参加者アンケートの結果は高い評価を得ている。	B	ホームページ更新については一部の部活動や行事に偏っている部分がある。部活動や学校行事など学校全体で細目に更新を行い、本校の活動を積極的に公表していく。

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 令 和 2 年 2 月 1 2 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の登校指導と朝のチャイム前校歌放送が定着している。特に、本年度から開始した朝のチャイム前校歌放送は生徒の時間を守る意識の高揚と愛校心を高めることに繋がっている。その効果もあり、遅刻者数が減少していることを評価する。今後も継続して取り組んでもらいたい。</li> <li>・三郷市と連携した様々な取組により、生徒達のコミュニケーション能力及び社会性が向上している。生徒にとって、様々な経験を増やす場となっている。今後とも、生徒の活躍の場を増やしてほしい。</li> <li>・マナトレを有効活用し、基礎学力の定着について粘り強く指導している。また、先生方が、生徒の学力に応じたプリントを作成するなど、学力向上に向けて工夫されながら指導を行っていることが十分わかった。基礎学力の向上は重要課題である。生徒の意欲と学力を伸ばす継続的な取組を期待する。</li> <li>・先生方が、他校の公開授業にただ見学に行くだけではなく、そこで得た成果を職員研修会等で共有していることは素晴らしい。また、先生方向けのコミュニケーションプログラム研修も素晴らしい。今後も教員の資質向上に繋がる取組を行ってほしい。</li> <li>・3年間の進路指導が計画的かつ体系的に行われていることにより進学及び就職の実績は高い水準である。また、一人一人の生徒に向き合った個別指導を丁寧に行っている。今後は、さらに1、2年生時からの早い段階からの進路指導を充実させてほしい。</li> <li>・資格取得者の合格者を多数輩出している。就職する生徒も多いことから、資格取得については今後も継続して力を入れてほしい。</li> <li>・文化祭などの学校行事に保護者の多くが参加していることから、学校と保護者間で良好な関係を築いている。PTA後援会理事会等の参加率を上げ、保護者が積極的に学校に関わるための取組を行ってほしい。</li> <li>・ホームページの更新は、多くの保護者や中学生が関心を持っていることから積極的な更新をしてほしい。</li> <li>・中学校との連携は志願者確保においても重要である。出前授業等中学校との連携を深めてほしい。</li> </ul>	